


# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果


■ 使用評価ソフトウェアURL: CASBEE-評価用ソフト0106版, CASBEE-E&C2016版, CASBEE-BD\_NC\_2016(V2.1)

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	本田技研工業(株)埼玉製作所新居居	階数	地上3F/地下1F
建設地	埼玉県大里郡寄居町	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	2,475 人
地域区分		年間使用時間	4,165 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年10月 予定	評価の実施日	2019年10月25日
敷地面積	780,551 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社石本建築事務所
建築面積	1,205 m <sup>2</sup>	確認日	2019年10月25日
延床面積	3,180 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社石本建築事務所
			


**2-1 建築物の環境効率率(BEEワット&キャラクター) 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響キャラクター) 2-3 大項目の評価値(ワット&キャラクター)**

**BEE = 1.7**

S:★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★★ B:★★★★★ C:★★



BEE=1.0



**緑星計算**

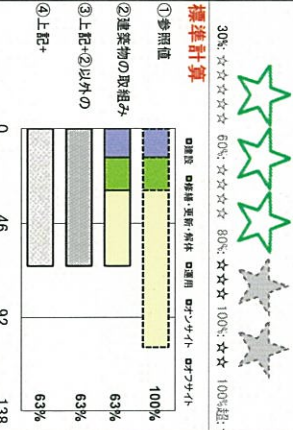
30%:☆☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 100%:☆☆☆☆☆ 100%超:★

①参照値 100%

②建築物の取組み 63%

③上記①+②以外の 63%

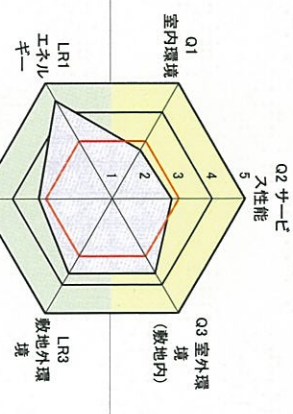
④上記+ 63%



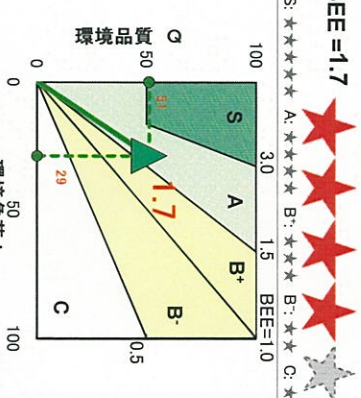
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

0 46 92 138



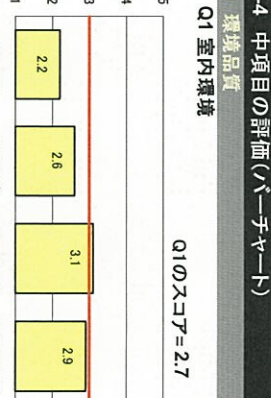
**環境効率率**



環境効率率

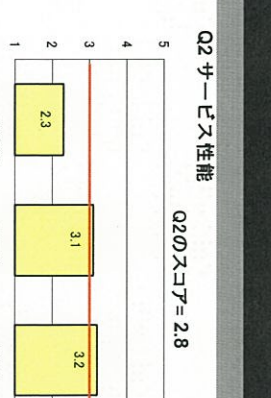
**Q1 室内環境**

Q1のスコア = 2.7



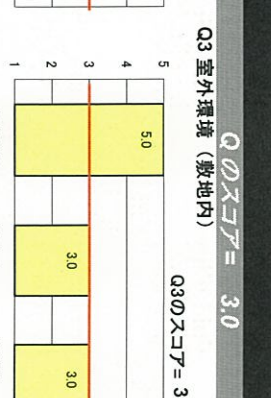
**Q2 サービエ性能**

Q2のスコア = 2.8



**Q3 室外環境 (敷地内)**

Q3のスコア = 3.0



**2-4 中項目の評価値(パーチャート)**

**Q1 室内環境**

Q1のスコア = 2.7



**Q2 サービエ性能**

Q2のスコア = 2.8



**Q3 室外環境 (敷地内)**

Q3のスコア = 3.0



**LR 環境負荷低減性**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4



LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2



LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.8



<b>3 設計上の配慮事項</b>			<b>その他</b>
<p>周囲に緑豊かな山が広がる敷地の特性を活かして建設された環境配慮型の工場である。新棟はこの工場全体のコンセプトを継承して計画した。</p>			構造躯体、乾式間仕切壁の高前覆化を行い、安全性の確保と建物の長寿命化を目指す。
<b>Q1 室内環境</b>	各階の更衣室・3階多目的ロビーには自然採光が可能な窓を設け、明るく快適な空間とした。	<b>Q2 サービエ性能</b>	3階多目的ロビーは十分な高さの天井高を確保した。外装は、鉄部の防錆対策を行った。
<b>LR1 エネルギー</b>	外壁に断熱パネルを用いることで、外皮の熱負荷を抑制した。	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	節水型衛生器具の採用を行った。
<b>LR3 敷地外環境</b>		<b>LR3 敷地外環境</b>	0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■G: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率率)  
 ■ライフサイクルCO<sub>2</sub>とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除いた年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命・省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q1 建築物の環境品質						3.0				3.0
Q1 室内環境						2.7				2.7
1 音環境						2.2	0.40			2.2
1.1 室内騒音レベル						1.0	0.40			
1.2 遮音						3.0	0.40			
1 開口部遮音性能						3.0	0.60			
2 昇壁遮音性能						3.0	0.40			
3 昇床遮音性能(軽量衝撃源)							-			
4 昇床遮音性能(重量衝撃源)							-			
1.3 吸音						3.0	0.20			
2 温熱環境						2.6	0.35			2.6
2.1 室温制御						3.0	0.50			
1 室温						3.0	0.38			
2 外皮性能				平均U値= W/m2K 平均SC値=		3.0	0.25			
3 ユーザー別制御性能						3.0	0.38			
2.2 湿度制御						1.0	0.20			
2.3 空調方式						3.0	0.30			
3 光・視環境						3.1	0.25			3.1
3.1 屋光利用						3.0	0.30			
1 屋光率						3.0	0.60			
2 方位別開口							-			
3 屋光利用設備						3.0	0.40			
3.2 グレサ対策						3.0	0.30			
1 屋光制御						3.0	1.00			
3.3 照度				主たるエリアの全館照明の照度が500Lx以上1000Lx未満		4.0	0.15			
3.4 照明制御						3.0	0.25			
4 空気質環境						2.9	0.25			2.9
4.1 発生源対策						3.0	0.50			
1 化学汚染物質						3.0	1.00			
4.2 換気				居室の場合は30m <sup>3</sup> /h人以上確保した		3.3	0.30			
1 換気量						4.0	0.33			
2 自然換気性能						3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33			
4.3 運用管理						2.0	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視						1.0	0.50			
2 喫煙の制御						3.0	0.50			
Q2 サービース性能						-	0.30			2.8
1 機能性						2.3	0.40			2.3
1.1 機能性・使いやすさ						1.6	0.40			
1 広さ・収納性						1.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応						1.0	0.33			
3 バリアフリー計画						3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性				居室(多目的ロビー)の天井高さは3mを確保した。		2.6	0.30			
1 広さ感・景観						5.0	0.33			
2 リフレッシュスペース						2.0	0.33			
3 内装計画						1.0	0.33			
1.3 維持管理						3.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30			3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10			
4 空調換気システムの更新必要間隔						3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				2種類がBの管材指定、1種類がCの管材指定		5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20			
2.4 信頼性						3.2	0.20			
1 空調・換気設備						3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				非常用発電設備を備え、電源設備を3階に設置した。		2.0	0.20			
3 電気設備				有線電話を備え、精密機器は1階以上に設置した。		4.0	0.20			
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20			
5 通信・情報設備						4.0	0.20			

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	全階高は3.85m以上を確保した。	2.8	0.30		-	3.2		
		2 空間の形状・自由さ	前震壁の位置を最小限とし、空間の自由度の高い計画とした。	4.0	0.60		-	4.4		
		3.2 荷重のゆとり	ロッカー、多目的ロビーを3500N/mとした。	1.0	0.40		-	3.0		
	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性		3.0	0.40		-	3.0		
		2 給排水管の更新性		3.0	0.20		-	3.0		
		3 電気配線の更新性		3.0	0.20		-	3.0		
		4 通信配線の更新性		3.0	0.10		-	3.0		
		5 設備機器の更新性		3.0	0.10		-	3.0		
		6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	3.0		
	Q3 室外環境(敷地内)	敷地内にてオートマ配置し多様な生物の生息・生育環境を提供し	-	0.30			-	3.6		
LR1 エネルギー	1 建物外皮の熱負荷抑制	1 生物環境の保全と創出		5.0	0.30		-	5.0		
		2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40		-	3.0		
		3 地域性・アミノアミンへの配慮		3.0	0.30		-	3.0		
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 地域内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	3.0		
		3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	3.0		
	LR2 資源・エネルギー	1 水資源保護	1.1 節水	1 雨水利用・雑排水等の利用	省水機器を採用した	3.4	0.20		-	3.4
				1.2 雨水利用システム導入の有無		4.0	0.40		-	4.0
			2 非再生性資源の使用量削減	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.60		-	3.0
				2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	3.0
				2.1 材料使用量の削減		3.0	0.30		-	3.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.22		-	3.0	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22		-	3.0	
			2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22		-	3.0	
			2.5 持続可能な森林から産出された木材	PS/EPSには点検口を設置した。	-	0.22		-	4.0	
			2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		4.0	0.22		-	4.0	
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.20		-	3.0			
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.30		-	3.0			
LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮	2.1 大気汚染防止	1 消火剤		3.0	0.30		-	3.0	
			2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	3.0	
			3 冷媒		3.0	0.50		-	3.0	
		2.2 温熱環境悪化の改善	1 ラインサイクルCO2が一般的な建物(参照値)に対して24%削減		4.4	0.33		-	4.4	
			2 地球環境への配慮		3.2	0.33		-	3.2	
			2.1 大気汚染防止		3.0	0.25		-	3.0	
		2.3 地域インフラへの負荷抑制	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.50		-	3.0	
			2 汚水処理負荷抑制		4.0	0.25		-	4.0	
			3 交通負荷抑制	十分な数の駐車・駐輪台数を確保している。	3.0	0.25		-	3.0	
			4 廃棄物処理負荷抑制	廃棄物の分別、再利用をおこなっている。	5.0	0.25		-	5.0	
3 周辺環境への配慮	3.1 騒音・振動・悪臭の防止	1 騒音		3.4	0.33		-	3.4		
		2 振動	振動測定を行い、規制基準値より大幅に抑えている。	3.6	0.40		-	3.6		
		3 悪臭		3.0	0.33		-	3.0		
	3.2 風雪、砂塵、日照阻害の抑制	1 風雪の抑制		3.0	0.33		-	3.0		
		2 砂塵の抑制		3.0	0.33		-	3.0		
		3 日照阻害の抑制		3.0	0.40		-	3.0		
	3.3 光害の抑制	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行わず、照明範囲を必要以上に広くしていない。	3.0	0.70		-	4.0		
		2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.7	0.20		-	3.7		
		2		4.0	0.30		-	4.0		

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトウェアバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称

本田技研工業(株)埼玉製作所常居完成工場 常の厚生棟

BEE

1.6

BEEランク

★★★★★

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア

4.0 + 3.6 = 7.6



重点項目の各スコアへの合計点

かんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上

## 3 重点項目についての環境配慮概要

### (1) ライフサイクルCO2の削減

スコア平均 4.0

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

LR3 敷地外環境対策

1. 地球温暖化への配慮

スコア 4.0

<配慮した内容を記述>

屋上に風圧で開閉できる自然換気窓を設定し、温度差による重力換気が効果的に行える自然通風システムを採用した。

### (2) 緑の保全・創出

スコア平均 3.6

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア 5.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア 3.0

<配慮した内容を記述>

敷地内にヒオトワラを配置し、適切に管理することで、多様な生物の生息・生育環境を提供した。

: 入力欄